

コニシキソウ

小錦草こにしきそう

トウダイグサ科

地べたを満喫する生き方

「こんなに小さいのに小錦草ですか？」

と驚く人がよくいる。巨漢の元大関「小錦」を連想するからだろう。コニシキソウの仲間にニシキソウ（錦草）がある。コニシキソウは小さい錦草という意味だから、決して間違いではない。あんなに大きいのに「小錦」というほうが本当はおかしいのだ。

コニシキソウは歩道のコンクリート・ブロックのわずかな隙間などによく見かける雑草である。夏の日の盛りは雑草が生い繁るときでもある。ほかの雑草たちは先を争ってぐんぐんと伸びてゆく。

しかし、コニシキソウはそんな激しい競争には見向きもしないで、地べたにへばりついてマイペースで暮らしている。かの詩人・草野心平は「蛙は地べたに生きる天国である」と評したが、コニシキソウも決して負け惜しみではなく、地べたの生活を満喫している。踏まれやすい過酷な場所に生えているが、コニシキソウは気にも留めないようすだ。そもそも上へ上へと無理して伸びようとするから、踏まれたときのダメージが大きい。



いのである。その点コニシキソウは、最初から地面にひれ伏して生育しているから、踏まれても折れたり、倒れたりすることはないのだ。

ただ、ぐんぐんと勢いよく伸びていくほかの雑草たちに比べて、地べたの生活は一見惨めにも見えるが、実際はどうなのだろう。

たとえば、太陽の光を十分に受けることができるのだろうか。雑草が競って上へ伸びるのは、太陽の光を求めてのことである。競争に敗れたものは、ほかの雑草の日陰で暮らすしかない。

ところが、コニシキソウにはその心配は必要ない。コニシキソウが生えているところによく踏まれる場所である。そのような場所はほかの雑草が繁ることはないから、コニシキソウは地べたでも十分に光を受けることができるのだ。むしろ日当たりのよい場所を選び好みして、さんさんと降り注ぐ太陽の光を独占して暮らしている。

花はどうだろう。花を高々と掲げなければ花粉を運んでくれる虫に発見されにくいのではないだろうか。これも心配は無用である。実はコニシキソウの花粉を運ぶのはチョウやハチではない。コニシキソウが選んだパートナーは同じ地べたに生きるアリなのである。

働き者のアリは地面の上に伸びたコニシキソウの茎を伝いながら蜜を集め、口のまわ

④

りについた花粉を運んでいく。そのうえ、アリは蜜の匂いだけで集まってくるから、チヨウやハチを呼び寄せるための美しい花びらで飾りつける必要がない。だから、コニシキソウの花は雄しべ一本、雌しべ一本というきわめてシンプルな構造である。さらには、アリが相手だからごくごく小さい花を咲かせればいいし、蜜の量も少しでいい。かなりのコスト削減を実現しているのである。

ニシキソウ（錦草）の名は、葉の緑色と茎の赤色のコントラストが美しい錦を思わせることに由来する。地べたに生きながら錦をまとうコニシキソウは、はた目から見ると、りもずっと楽しい生き方をしていないだろうか。

植物の生育を測る指標に草高くさたかと草丈くさたけがある。草高は地面から茎の先端までの高さである。一方の草丈は根元から茎の先端までの長さである。まっすぐ縦に伸びる植物にとっては草高と草丈はまったく同じである。しかし、コニシキソウにとっては大きく異なる。横に伸びるコニシキソウにとってはどれだけ草丈を伸ばしても草高はほとんどゼロなのだ。

偏差値やGNPなど、人間はつい高さでその成長を測りたがる。しかし、人間が草高で判断しようと、コニシキソウにとって重要なのはあくまでも草丈なのである。

何も上へ伸びるばかりが能ではない。世間体や常識にとらわれず自分流の生長をすれ

ばそれでいいのだ。このコニシキソウの開き直りは、多士濟々の雑草のなかにあってもまさに新境地を開拓したとっていいだろう。

コシキソウ *Chamaesyce maculata*; (*Euphorbia maculata*; *E. supina*)
(トウダイグサ科 ニシキソウ属)

コシキソウは北アメリカ原産の一年草の帰化植物。畑や路傍、荒れ地に生育している。地面をはって広がり、茎から根を出すので、畑や庭では嫌われる雑草である。傷つけると乳液を出す。葉の中心部に赤紫色の斑紋がある。

和名は小錦草であり、よく似ているニシキソウに比べて小さいことを意味している。ニシキソウとは、葉に明瞭な斑紋があること、植物体に毛が多いことで区別できる。



こにしきそう No.074

名 前 コニシキソウ
小錦草

別 名 アカクサ

科 名 トウダイグサ科

学 名 *Euphorbia supina*

花 期 8～10月

草 丈 匍匐性植物

生育地 畑地、道端、庭

仲 間 ニシキソウ、オオニシキソウ

その他 帰化植物

撮影地 豊橋市牛川町



※画像はクリックで拡大します。

メ モ

ニシキソウは、茎の赤色と葉の緑の対比が美しいので名づけられました。ニシキソウよりやや葉が小さいので、コニシキソウと呼ばれます。北アメリカ生まれです。ニシキソウの仲間は茎を切ると、どれも白い汁が出てきます。コニシキソウの特徴は、葉の中央に暗赤色のはん点があることです。茎を四方に出し、地表をはって伸びます。



名前	コニシキソウ
科名	トウダイグサ科
学名	<i>Euphorbia supina</i> Rafin.
花期	夏～秋

くきは根元から枝分かれして、地面をはうようにひろがり、10～30cmになります。

葉は長さ5mm～1cmほどのだ円形で、葉の真ん中にこい紫色のはん点があるのが特ちょうです。

葉のわきに壺(つぼ)のような形の花をつけますが、目立ちません。

名前のいわれ

小さなニシキソウという意味。ニシキソウは葉の緑色と、くきの赤色が錦のようであることから。錦とは美しいもようの入った織物のこと。

コニシキソウ (*Euphorbia supina*)

● 説明

北アメリカ原産の一年生帰化雑草で全国に分布しています。茎は暗赤色で上向きに白毛が生え、根元で分枝して地面に張り付くようにして四方に広がり、長さ10-30cmほどに生長します。葉の表面に暗紫色の斑点があるのが特徴で、葉は対生ですが形は非対称で、縁はギザギザになっています。また茎を傷つけると白い乳汁が出ます。



写真: 茎の白毛および葉の斑点、
葉の縁がギザギザである様子



写真: 茎切断面からの乳汁

コニシキソウ



科名: トウダイグサ科

別名: -

生薬名: ハンジキン(斑地錦)

漢字表記: 小錦草

原産: 北アメリカ

用途: 畑や路地などの地上を這うようにして自生する一年草。茎などをちぎると白い乳液が出ます。中国では全草を止血・血便・血尿に、また催乳薬としても用います。

学名: *Euphorbia supina* Rafin.

コシキソウ



オオニシキソウ



ハイニシキソウ



茎は基部でよく分岐し地表を這い、縮れた白毛が多い。











ヨニシキソウの全体(1)



コニシキソウの全体(2)







葉の中央の斑紋に注目



左:コニシキソウ、中:ハイニシキソウ、右:オオニシキソウ